

定例市長記者会見

日 時：4月20日(木) 午前11時～11時30分

場 所：本庁舎 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、中部経済新聞、
共同通信社

本日の案件は、2つです。

1番目は「事業者と協調し従業員の奨学金返還を支援します」についてです。令和5年度当初予算の「イチ推し20」の事業でご紹介したものです。ぜひPRにご協力いただければと思います、取り上げました。現在、大学進学率は5割を超え、そのうち半分以上の方が奨学金を受け、働きながら返還している状況です。市としては、若い方に市内で働いてほしいという思いもあり、奨学金返還サポート補助金制度を新たに導入します。日本学生支援機構(JASSO)の奨学金返還制度(スカラK I)を利用することで、企業としては返還額を損金算入できる税制上のメリットがあります。その制度を使って中小企業者等を対象に、共同で若年労働者を支援するものです。5月から受付開始の予定です。県内では、豊橋市・豊川市・春日井市が同様の支援を実施していますが、西尾張地区では初です。若者が一宮市内で働いてもらえることを期待しています。

2番目は「子どもの居場所づくりに取り組む団体に補助金を交付します」についてです。市内では様々なボランティア活動が始まっており、その動きを後押ししたいという思いで新たに始めます。現時点で市が把握している団体は、「子ども食堂」を実施している4団体ですが、さらに増やせるようPRのご協力をお願いします。令和5年度分の申請期限は、5月末までです。子ども食堂に限らず、遊びの体験や勉強を教えることなどのボランティア活動を支援していきたいという思いで始めさせていただきます。

以上、本日の説明でございます。

■事業者と協調し従業員の奨学金返還を支援します

(記者) この制度を設けた経緯は？

(担当) 市民の潜在ニーズを先取りし、事業者さんにも人材定着のメリットがあるところも含めて、支援制度を始めました。

(市長) 市内で働いてもらえる若者が増えるとうれしいですね。

(記者) 想定人数や予算額、今後の見込みは？

(市長) 初年度は、10人分で予算額180万円です。今後、手を挙げていただける事業者さんが増えれば、それに応じて増やしていきたいです。

(記者) 1事業者あたりの人数制限はありますか？

(市長) ありません。何人でも大丈夫です。

(記者) 市として、このような奨学金のサポートはこれまでにありましたか？

(市長) 市民病院で助産師、看護師への支援はありましたが、広く一般を対象にということでは初めてです。

■子どもの居場所づくりに取り組む団体に補助金を交付します

(記者) 具体的にどのような団体をイメージしていますか？

(市長) 補助の対象となる可能性がある団体は4団体で、全て子ども食堂です。

(記者) 学習の補助をしていて補助金の対象になりそうな団体はありますか？

(担当) 塾は対象外です。把握はしていませんが、営利を目的とせずに子どもの居場所として勉強を教える団体であれば補助対象になります。

(市長) 昔からの伝統芸能の笛や太鼓などを教える団体も対象になるということで声掛けをしています。まだ具体的な話にはなっていないようです。

■名鉄百貨店一宮店さんの閉店報道について

(記者) 駅前のにぎわいにも関わる話題だと思いますが、どう受け止めていますか？

(市長) 期待しています。名古屋の名鉄百貨店本店さんがリニア開通の2027年に向けて大改修するという話がありました。それに合わせて一宮店さんも百貨店という業態をどう見直すかという話は何年も前からありましたから、来るべき時が来たと受け止めています。一消費者として見ても、ネットショップや郊外のショッピングモールなどとの競争にさらされて、百貨店は大変だと感じます。コロナ禍の3年間を見ても、地下や1階の食品売り場は賑わっていましたが、上層階の衣料品売り場などは大変だろうなという思いで見えていました。今後も新しい形でこの地域で商い・なりわいを続けていただけるということですから、どんな展開を見せていただけるのか楽しみにしています。長年慣れ親しんだものが無くなる寂しさはありますが、新しい時代に合った形でのビジネスを真剣に考えて下さっているので、私は期待しています。

(記者) 新しい商業施設ができるという報道もありますが、どのような構想かご存じですか？

(市長) 当事者の名鉄百貨店さんや名古屋鉄道さんが何も公式には発表されていないので、私から申し上げるのは控えますが、行政が心配したり手を出したりしなければいけない状況ではないと受け止めています。百貨店の撤退後に跡地や雇用をどうするかといった行政が乗り出さなければいけない状況であれば私も前面に出ますが、今回の件は令和の時代に合わせたりリニューアルだと受け止めています。行政が何か助けましようかというスタンスではありません。ただ、例えば地域の特産品・名産品の発信などでお手伝いできることがありましたら、市も協力しますという受け止め方です。

(記者) 今の段階では心配をしていないということでしょうか？

(市長) 心配していません。期待していることとしては、名鉄百貨店さんはこれまで文化や芸術も応援してくださっていました。催事場での催し物だけでなく、コンコースにあ

る駅ピアノも名鉄百貨店さんがメンテナンスをしてくれているので、リニューアル工事期間中を含め、今後どうなるのかという心配はありますね。

(記者) 名鉄百貨店一宮店で働いている従業員の雇用については、何か聞いていますか？

(市長) 聞いていません。市が心配しなければいけないことはないかと、名鉄グループさんが対処していただけたらと思っています。

■一宮稲沢北インターチェンジ周辺等の開発について

(記者) インターチェンジ周辺に物流倉庫などが増えています。市が目指す開発の方向性と合っていますか？

(市長) 物流・ロジスティックスの拠点になることは、ありがたいことと受け止めています。

2024年に労働時間の規制が強化され、長時間労働が是正されると人手不足がさらに深刻になるという話もあります。そこで首都圏と関西圏の中間地点で、かつ太平洋側と日本海側を結ぶ東海北陸自動車道の結節点でもある一宮市に拠点を設けようというのは自然な流れだろうと思います。その受け皿になれるのであれば、ぜひ企業に来ていただいて、税収アップに繋がりたいという狙いもあります。ただし、無機質な倉庫が並ぶだけでは、市民感情や地域の感情として違和感を持たれる方もいらっしゃると思います。そこで乱開発を防ぐため、開発審議会の基準を厳しくし、緑化面積の割合を多くし、地域社会と進出企業が共生していけるように条例を整備しました。また、景観だけでなく、例えば子どもの登下校時にトラックが出入りする際の交通安全への配慮など、できるだけスムーズに地域社会に溶け込んでもらいたいと期待しています。これからの動向を見極めていきたいと思っています。

(記者) 千秋町浅野羽根の物流倉庫建設に反対する地元住民からの提訴については、何かありますか？

(市長) 司法がしっかり判断してくれると思います。市は、行政として法令にのっとり審査した上で開発許可をしています。これを裁判所がどう判断するかということです。我々はやってきたことを粛々と説明していきます。